

いきいき 衍田人

見る人を取りこにする

吉場

けん玉4段の腕前
達工さん（23歳・持田）

昔の遊びの一つとして紹介されるけん玉ですが、シンプルな遊びだからこそ、だれもが楽しめる玩具として今でも幅広い年代から親しまれています。そんなけん玉を使ってさまざまな技を繰り出し、NPO法人日本けん玉協会ライセンス4段の腕前を持つのが持田にお住まいの吉場達工さんです。

吉場さんがけん玉に興味を持ち、熱中し始めたのは小学6年生のころだそうです。「練習を重ねれば、難しい技でもできるようになるうれしさや楽しさを知り、夢中になりました」と話す吉場さんは、高校3年生までにライセンス1級を取得。その間、学校のイベントや福祉施設への慰問などで、パフォーマンスを行ってきたそうです。

大学へ進学するとコメディ研究部に入部。パントマイムやジャグリングなどとも



に、けん玉もこれまで以上に練習を重ねました。年4〜5回全国各地を会場に行われる日本けん玉協会の認定試験にもできる限り参加し、遠くは長崎県まで受験しに出掛けたことも。その熱心さが示すように20歳でライセンス4段を取得した吉場さんは、コメディ研究部の先輩に誘われ、一芸を持つ大学生を紹介するテレビ番組のオーディションを受けると、合格し出演が決定。純粹で親しみやすい人柄も相まって、その後もテレビ局からの依頼でたびたびテレビ出演した吉場さんは、いろいろなイベント先で「テレビ見ましたよ」と声を掛けられるようになったそうです。また、日本けん玉協会2級指導員の資格も併せ持つ吉場さんは、今年7月に市内の公民館で子どもを対象としたけん玉教室の講師を務めました。「難しい技でもあつという間にできるようになる子供たちの上達の早さにびっくりしました。楽しそうにけん玉をやっている姿を見て、あらためてけん玉の魅力を実感しました」

分かりやすく丁寧な指導と、目の前で披露される吉場さんの妙技に、子供たちは大喜びし、けん玉のとりこになってしまったそうです。上位の段の取得を目指し日々腕を磨く吉場さん。「これからは、大会への出場機会を増やすと同時に、指導員資格を生かしてたくさんの人と交流し、けん玉の楽しさを広められたら」と熱い思いと夢を語ってくれました。

私の作品

俳句

佐間 藤田 素仙
羽ばたきを知らぬ鷺草我が庭に

白川戸 鈴木 都子
故郷に法事の一夜天の川

荒木 増田 時枝
母の声聞きて安堵の八月や

須加 須加 照代
秋めいて朝日差し込む厨かな

埼玉 松岡 孝子
散歩する林道の風秋めきて

壹里山町 斉藤 閑風
一皿の茄子揉み添えて敗戦忌

持田 岡本千寿子
手作りのイカの塩辛齧る夏

西新町 小宮 武
今日もまた戦う如く草を引く

持田 成田 国利
噴水のやみで静寂覆ひけり

荒木 高沢よね子
朝顔のつぼみに秘める明日の色

◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までにはがき・封書で広報広聴課へご応募ください。

荒木 蛭間しげ子
夏つばめ留守の軒先子だくさん

須加 蓮 陽子
エアコンにこもりっきりの喜寿の夏

城南 橋本千枝子
奥の間の掛け軸変えて涼新た

城西 八木橋近蔵
待ちわびる日の出や蓮の玉真珠

下忍 阿部 義之
風鈴の音一つなし午後三時

(木島 斗川 監修)

『俳画』

金澤 多津子(持田)

